

第8号様式

平成16年4月5日

外務大臣
川口 順子 殿

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長 峯野 龍弘

平成15年度国際開発協力関係民間
公益団体補助事業完了報告書

平成15年10月7日付第220号をもって補助金の交付決定を受けた標記の事業が完了したので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第14条前段の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

1. 補助事業の名称 : スリランカ
1. 農漁村開発事業 (2) 農村改善支援事業
2. 補助金の交付決定額及びその精算額(別紙のとおり)
3. 補助事業の実施期間 : 2003年4月1日~2004年3月31日
4. 補助事業の成果

(要約)

対象地域の農地における安定的な農業用水の確保及び耕作地の拡大により、地域の農業生産を向上させるため、灌漑設備を建設した。具体的には整備済みのニカタラワ貯水池、ウェラウェワ貯水池、カディガラ貯水池から周辺農地への副水路等の整備と近隣にある3つの貯水池(ウェリキキリジ貯水池、コリベンダウェワ貯水池、ベランカダワラ貯水池)の修復を行い、十分な農業用水の確保と新たな農耕地開拓による農業生産力の向上を実現するに至った。

その他、詳細報告は添付資料をご参照ください。

以上

事業完了に伴う詳細報告

1. 事業の必要性

本事業地であるカビテゴッラワ郡は、首都コロンボから北北東 268km、北中央州アヌラーダブラ郡に位置する。26 の村区、103 の集落から構成されており、総面積は 385km²、総人口は 20,940 人である。ワールド・ビジョン・ジャパンは自主事業として 13 村区で「カビテゴッラワ地域開発プロジェクト」を実施しており、11,000 人の受益者に向けて支援活動を実施している。

本事業地は北部乾燥地域に属し、気候は明確に雨季と乾季と区別できる。年間降水量は 1,000-1,500mm であるが、雨量の 75% が雨季（10 月～12 月）に集中するため、この時期に主要作物の栽培・収穫を行っている。その他の時期は極端に雨が少なく、わずかな雨が降る 3 月～5 月の間に短期間で収穫可能な作物を栽培している。この短い雨季が過ぎると 4 ヶ月近く乾季が続く（5 月末～9 月）ため、灌漑施設整備と安定的水供給は農業社会の根幹に関わる問題となる。

本事業地には伝統的灌漑施設があり、10 世紀頃までは十分整備・活用されていたと思われる。しかし次第に修理保全されなくなり灌漑能力も低下してしまった。内戦による耕作放棄と極端な天候不順（集中豪雨、洪水、干ばつ、渇水など）に起因する近年の農地荒廃は農業基盤をさらに弱体化させ、難民キャンプから帰還した農民は貧しい生活を強いられていた。

そこで、ワールド・ビジョン・ジャパンは、本事業地の灌漑設備を修復し農業用水を確保すると共に、食糧の安定供給、栄養不良と貧困の緩和を図るため本事業を実施した。

2. 事業の位置付け

ワールド・ビジョン・ジャパンは本事業により、クンチュツワ貯水池の余剰水量をニカタラワ貯水池、ピハラハムミレワ貯水池、ウェラウェワ貯水池を經由してカディガラ貯水池まで引水する灌漑施設を 3 年間かけて整備することとした。

初年度（フェーズ I）事業としてクンチュツワ貯水池の余剰水量を下流のカディガラ貯水池まで段階的に引水するための灌漑設備工事を行い、灌漑中流域のニカタラワ貯水池・ウェラウェワ貯水池への分水工事と修改善を行った。2 年目（フェーズ II）では、カディガラ貯水池を構成するクダ・カディガラ貯水池及びマハ・カディガラ貯水池の修復及びフェーズ I で行った水路整備の追加工事を行った。

最終年度である今年度（フェーズ III）は、整備済みのニカタラワ貯水池、ウェラウェワ貯水池、カディガラ貯水池から周辺農地への副水路等の整備と近隣にある 3 つの貯水池（ウエリキキリジ貯水池、コリベンダウェワ貯水池、ベランカダワラ貯水池）の修復を行い、十分な農業用水の確保と新たな農耕地開拓による農業生産力の向上を実現するに至った。

3. 事業工事の実施内容

クンチュツワ貯水池からカディガラ貯水池まで引水する灌漑施設の各貯水池から農地へ延びる副水路の建設

- 1 ニカタラワ貯水池の副水路建設

フェーズ I にて修復したニカタラワ貯水池から延びる左右2本の副水路及びその付属部分を建設し、新たに45エーカーの耕作地を拡大できるようにした。

- 2 ビハラハルミレワ貯水池の副水路建設

本事業にて十分な水を引水できるようになったビハラハルミレワ貯水池から、左右2本の副水路及びその付属部分を建設し、新たに45エーカーの耕作地を拡大できるようにした。

- 3 ウェラウェワ貯水池の副水路建設

フェーズ I にて修復したウェラウェワ貯水池から延びる左右2本の副水路及びその付属部分を建設し、新たに10エーカーの耕作地を拡大できるようにした。

- 4 クダカディガラ貯水池の副水路建設

フェーズ II にて修復したクダカディガラ貯水池から延びる左右2本の副水路及びその付属部分を建設し、新たに100エーカーの耕作地を拡大できるようにした。

- 5 マハカディガラ貯水池の副水路建設

フェーズ II にて修復したマハカディガラ貯水池から延びる左右2本の副水路及びその付属部分を建設し、新たに195エーカーの耕作地を拡大できるようにした。

ウエリキキリジ貯水池の修改善

ウエリキキリジ貯水池は数箇所の大きな破損箇所があり、水を十分貯められない状況にあった。そのため、貯水池の岸壁を修復し、水量可変可能な水門を3箇所及び水路を建設した。現在の30エーカーから62エーカーまで耕作地を拡大することが可能となる。

コリベンダウェワ貯水池の修改善

コリベンダウェワ貯水池はメンテナンス不足により1960年以降使われずに放置され、水を十分貯められず、現在は周辺に20エーカーほどの農地しかない状況にあった。そのため、貯水池の岸壁を修復し、水量可変可能な水門を2箇所建設した。69エーカーまで耕作地を拡大することが可能となる。

ベランカダワラ貯水池の修改善

ベランカダワラ貯水池は現在一時的にサンドバッグを積み上げて水を貯めている状況であり、傷みの大きい水門から水が漏れて非効率的な機能しか果たさず、また排水部分の破損により農地に水が溢れることもし

ばしばであった。そのため、貯水池の岸壁を修復し、水量可変可能な水門を2箇所建設した。現在の64エーカーから173エーカーまで耕作地を拡大することが可能となる。

4. 事業の効果

灌漑面積を拡大と農業生産の向上

ウェリキキリジ貯水池、コリベンダウェワ貯水池、ベランカダワラ貯水池の修改善によって、主要農繁期の農耕可能面積を46ha（約103エーカー）から113.3ha（約280エーカー）に拡大、同様に第二農繁期の作付面積も6ha（約15エーカー）広げることになった。農業用水の管理運用は耕作面積拡大のほかに1haあたり1086kg平均の収穫を可能にした。これによって、近隣農村の年間食糧生産は340.9mtとなる見込みである。

クンチュツツワ貯水池からカディガラ貯水池への灌漑引水の完成によって、新たに166ha（約580エーカー）の農地で灌漑用水を用いた稲作が可能になった。同様に、裏作期でも48.5ha（約110エーカー）の農地が新たに灌漑流域に入ることとなった。これにより1haあたりの平均収穫量が815kgとなり、年間1080mtの食糧生産が可能になった。

しかしながら、事業地周辺では乾季が予想以上に長びき、十分な農業用水を確保できないまま農繁期を迎えてしまった。このため主要農繁期に水不足に陥り、ほとんどの農民が収穫を放棄してしまった。第二農繁期までに十分な農業用水を確保できなければ、農業不振はさらに深刻な問題となる。

耕作面積の拡大は、農家一軒あたりの耕作面積の増加ばかりでなく、これまで農地を持たずにいた住民に対する農地分配を可能とするものである。

新田開発による家計収入の増加は、今後3-4年以内を目処に外部からの援助に頼らない社会の創出に結びつく見込みである。

雇用の増加

着工以来、非熟練労働者、石工、大工、小売店販売員に対する臨時雇用が増え、地域の優良建設業者の監督下でさまざまな知識を得、経験を積む機会となった。耕作地の拡大は、農業、運輸、市場などの分野で新たな雇用機会を創出することとなり、事業地及び周辺地域の失業問題の緩和に貢献したと言える。

生活状況の向上

貯水池・水路ネットワークを使った漁業再開による副次的収入確保、収入の増加に伴う牛耕への切り替えと収穫量・流通量の増加、農道整備による運輸・流通・市場の成熟とがあいまって農産物価格の適正化が図られ、生活条件に全体的な向上が見られた。

食糧供給の安定化と栄養失調の改善

今後の農業生産の増加により、食糧供給の安定化が期待できる。またカピテゴッラワ総合地域開発プロジェクトの支援も助けて子どもの栄養状況の改善も見られる。

5．灌漑施設の譲渡

スリランカの国内法では灌漑施設・貯水池は全て行政の管轄下に置かれるものである。これらの事業はすべて政府の認可を得て実施されるものであり、本事業の場合でも灌漑施設の修改善が完了した後は行政に施設の引渡しを行う予定となっている。スリランカは2004年4月2日からの国内総選挙を控え政情不安が懸念されるため、引渡しに関しては選挙終了後に国内政情が安定し次第行う予定である。

6．持続性

ワールド・ビジョン・ジャパンは、本事業地においてカピテゴッラワ総合地域開発プロジェクトを実施している。今後は同プロジェクトにおいて引き続き当事業地の地域開発を支援していく予定である。

別紙

交付決定の内容		支払実績額	確定額 (B)
補助対象経費の区分	補助金の額 (A)		
建設費	9,000,000	11,343,095	9,000,000
小計	9,000,000	11,343,095	9,000,000

補助対象外経費 の区分	所要額 (自己資金)	支払実績額 (C)	摘要
建設費	9,574,000	5,780,124	
現地調整員費	2,113,000	2,093,235	
外部監査費	226,000	227,700	
本部事務所事業管理費	890,000	446,066	
その他(補助対象外の差額)		2,343,095	
小計	12,803,000	10,890,220	
補助金使用額(B)	9,000,000	自己資金使用額(C)	10,890,220
総事業額	(B) + (C)	19,890,220円	

支払い明細集計表

A 補助対象の区分	支払実績額 (円)
A1 建設費	11,343,095
小計	<u>11,343,095</u>
B 補助対象外経費の区分	支払実績額
	円
B1 建設費	5,780,124
B2 現地調整員費	2,093,235
B3 外部監査費	227,700
B4 本部事務所事業管理費	446,066
小計	<u>8,547,125</u>
総事業費	19,890,220
<u>換算レート</u>	1.2円/スリランカルピー